ひらぽう　8月号

（第３５報）

水鉄砲について

PN:ピー氏

複数のチームに分かれ、対戦しました。
チームで戦ったとき、防御道具として、僕は盾として傘を利用して戦いました。
防御率は高いものの、途中で壊れてしまい、攻め込まれ見事に負けました。
ポンプ式の水鉄砲だったので、水量の加減がちょっちー難しく、すぐ水がなくなってしまいました。

PN:HELLO氏

はじめての水鉄砲の参加、どんな感じなのか、どきどきでしたが、とても楽しく遊べました。
水鉄砲は小学生以来でしたが、小学校のときが蘇るほど、夢中になって楽しめました。
とくに水鉄砲を使う用の道具が多種多様だったので、“これをつかうの！？”と驚いたのもありましたし、一つだけ大きいポンプ式の水鉄砲の威力を実際見た時も驚きました。
年齢がたつにつれて、外で思いっきり楽しむことが減っているなかでの、外での運動と遊びだったので、自分自身素直に楽しいと感じられたので、よかったです。

ひらぽダーツの旅！

７月某日、ダーツの旅の企画を実施しました。
枚方公園駅周辺地図から目的地を決めたのですが、まさかの淀川の向こう側が選ばれて驚きました。
でも、枚方大橋・高槻市内を徒歩で進むという初めての経験ができてよかったです。
今回は目的地が遠くて結局途中で折り返しましたが、次回もしやる機会があったら目的地に辿り着…いや、もう少し行きやすい目的地を選べたらなあと思いました。

PN:利用者T氏

コラム：コロナ禍での生活

コロナ禍で、世界は大きく変わってしまった。最前線に立つ人々とは比べるまでもないが、一般人の身からしてもあらゆる活動に制限がかかり窮屈さを感じることが増えた。本来癒しになるはずの娯楽も、中止や延期、内容の変更を余儀なくされている。

どこかけだるげでよどんだような日々を過ごし、店頭から商品が消えた鮮烈な日々は今ではもう色あせた記憶に過ぎない。あれだけ熱心だった情報収集は、聞き流す程度にまで冷めてしまった。本来ならともに苦難の時代を生き抜く同士と呼ぶべき人たちのコロナ談議が苦痛になる日もあった。

一度は収束に向かうかと期待されたコロナだが、超長期戦の様相を見せ始めた。先は長い、この状況下ではだれもが思い悩んでいるに違いない。開けない夜はない、焦らず自分にできることからやっていこうと思う。

PN:この先生き残る先生

今回からひらぽメンバーによるデザインで紙面がリニューアル！
記事の執筆も、もちろんひらぽメンバーによるものです！
コロナ禍の中でも、進化を続けています！！

～発行元・お問い合わせ先～
枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター（枚方市子どもの育ち見守りセンターとなとな内）
電話：050-7102-3228／相談専用電話：072-843-2255／　ＦＡＸ：072-846-7952
当センターでは、相談・居場所「ひらぽ」・家族の会を行っています。